

8/9 夏といえはキャンプでしよ？ 野外体験活動

子ども会育成協議会による野外体験活動が8月9～10日の2日間、清富多世代交流センターで行われました。

食材などの買い物を終え午後2時30分、現地に到着した子どもたちはまずみんなで協力しながらテントの設営。その後はいよいよ、夕食のシチューと飯づつによる炊飯の準備に取り掛かりました。米を研ぐ、野菜を切る、外で火を起すなど班ごとに役割担当。まきで炊いたご飯は予想以上の出来。シチューはちよっぴり水っぽくなってしまいました。自分たちでつくった

食事はやっぱりおいしいようで、みんな「おかわりっ！」を連発、完食となりました。

食後はアイスクリームづくり。生クリームに牛乳、砂糖、バニラエッセンスを加えて容器に入れ、氷に塩を振りペットボトルと一緒に詰めます。これを15分ほど振り続けるとおいしいアイスの完成。一人分は少しでしたが、みんなで分け合って食べました。

最後はドラム缶風呂。まきで沸かした優しいお湯は「あつたか〜」「気持ちいい〜」と大好評。歯を磨いてテントに入り、寝袋にもべり込んだ子どもたちは星が瞬く夜空の下、風の音を聞きながら眠りにつきました。



玉ねぎの皮むきも真剣



米研ぎに悪戦苦闘



力を合わせてテント設営



おいしいご飯にな〜れ！



星空の下の露天風呂



蚊取り線香に火をつけて…



テントの中でイエーイ♪

8/22 町の未来を考える 協働のまちづくり講演会



15年後の上富良野町の姿をイメージすることが大切と話す飯田教授

札幌国際大学の飯田俊郎教授を講師に、保健福祉総合センターがみんなで開かれました。飯田教授はイベントが大體10年は続いても、15年続けるのは難しいとされていることを例に「まちづくりも同じ。15年先を見据えてさまざまな人を巻き込みながら進め、次世代へ引き継いでいくことが重要」と話し次世代を育成する必要性を強調。

後半には十勝岳サイクリングクラブの荒田政一会長から、今年初開催となった「かみふらの十勝岳ヒルクライム」の事例を基に「それぞれが押し付け合いではなく協力し合い、一緒につくり上げていく仲間っていいなと感じました」との実践報告もありました。

8/23 かみふらの魅力が満載のモニターツアー

昨年度の観光庁による「住んでよし訪れてよし」事業を基に、東中地区を中心に組まれた「まるごと上富良野」モニターツアーが実施されました。

募集初日に定員が満員になる盛況ぶり、札幌方面から31人が参加。ホップ畑の見学やメロンの収穫体験と試食のほか、多田農園では人気商品のにんじんジュースと野菜まんをいただきながら同農園の取り組みについて話を聞くなど、かみふらの魅力満載のツアーとなりました。



メロンの収穫を楽しむ参加者

中でも好評だったのが、炭火で食べるかみふらの地養豚のさがりとホルモン、プレミアムビール「まるごとかみふらの」が振る舞われた昼食で、特に豚さがりには「おいしい」と称賛の声が上ががり、参加者は地元の味に満足げな表情を浮かべていました。